

長柄小だより

考えて行動できる子
～自立・創造
しなやかな心～

令和5年度 第7号
2023年6月1日
葉山町立長柄小学校
校長 長谷川 泰子
TEL 046-875-6860

5年生 総合的な学習の時間 **田おこし**

根岸さんの思いに触れて



5月11日、さんの田んぼで田おこしをした5年生。25日には直接、根岸さんから長柄小の田んぼの歴史と根岸さん自身の思いを聞くことができました。お父様の代から長柄小の田んぼを続けてくださっているさん。長柄在住の農家の方です。野菜苗や花の苗をメインに生産されていて、田んぼは長柄小の子どもたちのためだけに続けてくださっています。地域の消防団員と

してもご活躍。子どもたちの中には「僕のお父さんも消防団」といって喜ぶ児童がいました。

【長柄小の田んぼの歴史と危機】

葉桜団地ができはじめた昭和55年(43年前)、さん自身が5年生の頃、子どもたちに田んぼをさせたいという学校からの依頼を受け、ご両親が始めた体験学習。存続の危機が何度も訪れたそうです。

【危機①】周囲の田んぼがなくなり用水路が廃止。ポンプで川から水を汲み上げたが、うるさいと苦情。水が調達できない。子どもたちに体験させるため水道を引くことで何とか解決。

【危機②】お父様が倒れ後継者問題。田んぼをやっていた根岸さんが上山口の農家の協力も受けて何とか続けられるように。

【危機③】上山口の農家が辞めてしまい、農機具(脱穀機、もみすり機、精米機)を借りることができない。体験学習存続のため、根岸さんはご自分で道具を買うことを決意。

危機を乗り越え現在に至る田んぼですが、30aの田んぼからとれるお米は30kgほど。必要経費を考えると赤字にしかない状況でそれでもご家族で力を合わせ、危機を乗り越え、続けてくださる思いを子どもたちに話してくださいました。



「みんなが主食として食べているお米がどのように作られているか知ってほしい。一生に一度かもしれない田んぼを体験させてあげたい。そして農業に関心を持ち、考えてほしい。」

「農業は自然との共生の営み。農業は観察が大事。そして観察したことを考えること(分析)。考えたら行動すること(対応する)。これは米作りだけでなく、人が生きていくうえで一番大切なこと。」

「体験でいろいろな感想や考えをもったら、それをどう生かすか、そこを考えてほしい。考えるきっかけになってくれることを願って続けている。」



体験の機会があり、考えるきっかけをいただいた5年生の子どもたちの学びをどう広げていくか、学校の責任も大きいところです。次は田植えをさせていただくようです。体験で終わるのではなく、ここから子どもたちがどう考えるか、そしてどう支援するか勝負です。

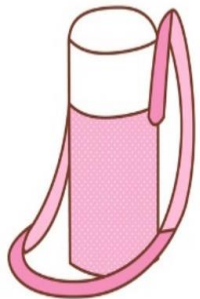


運営委員会 朝の集い「学校のきまり」

25日(木)全校児童が体育館に集まり、朝の集いをおこないました。久しぶりの対面、朝の集いです。全員で集まって並ぶことにも慣れていない子どもたちなので戸惑うかと思いましたが、6年生がきちんとガイドし、上手に集まることができました。運営委員会がクイズ形式にして学校のきまりを伝えていました。ステージの上から立派に進行する運営委員の姿をみんなで見たり、クイズの正解が伝えられ喜ぶ声が大きく体育館に響き渡ったり、対面でしか味わえない臨場感を感じました。これからはこういう機会も増えていくでしょう。

水筒の中身について

水筒の中身はお茶(茶のつくもの 緑茶、麦茶等)、お水、スポーツドリンクのいずれかをお願いします。例年、スポーツドリンクはいつからとお知らせしていましたが、今年度からは期間を限定せず、スポーツドリンクも通年可とします。学校にいる間に水筒の中身がなくなった場合は、ウォーターサーバー(冷水器ではありません)や水道を利用して補充してください。



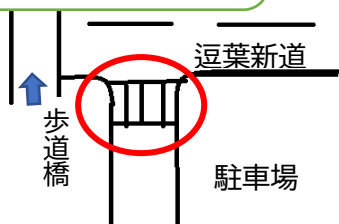
ナイキジャパンから「みんなのいろいろ」という本を寄贈していただきました。色分けされた世界の生きにくさと、じぶんの色は自分で選ぶものというメッセージが込められています。クラスに1冊ずつあります。子どもたちがそれぞれ手に取り、考えるきっかけになってほしいと思います。

本の寄贈



学校下の横断歩道は通学路ではありません

坂道を降りて、逗葉新道に出るT字路の横断歩道を、渡るときは保護者の方と一緒に渡りましょう。通学路に指定していません。



今月も開催 お話しにきてください

リラックスルーム懇談会 café
6月28日(水)16:00～